



# 錦田愛子 研究会

## -移民難民の政治学-

### 1. 錦田教授より

グローバル化による人とモノの移動の拡大が指摘されてから四半世紀が過ぎました。飛行機をはじめとする交通手段は価格競争と多様化が進んで安価になり、ヨーロッパやアジアそれぞれの域内では数千円から数万円で外国旅行ができる時代になりました。日本人のパスポートは2018年、世界で最も事前のビザ取得がいらない最強パスポートとしてランキングされています。ゼミを選んでおられる皆さんの中にも、すでに外国滞在を経験された方もいるかもしれません。とはいえ誰もが同じように自由に目的地を選択し、移動を許されるわけではありません。政情の不安定な国の人ではビザの取得に時間がかかり、申請しても認められない場合もあります。治安管理を理由に国境が厳しく検問されたり、閉ざされることもあります。逆に故郷を離れたくなくても、紛争や混乱を逃れて移動せざるを得ない場合もあります。移動の選択では、誰もが必ずしも自由な決定権をもてるわけではないのです。また短期の旅行はともあれ、長期的に外国に滞在するとなると、複雑な手続きが必要となります。新しい居住国での、肌の色や国籍による差別も、決してなくなったとはいえません。本ゼミではこのような「人の移動」をめぐる諸課題について、移動する人を総体的に移民/難民と捉え、多様な側面から検討を加えていきます。それは分野で言えば、法学、政治学、経済学、国際関係論、国際社会学、人類学、人文地理学など関連する多分野を横断した学問的渉猟といえます。長期化した紛争地からの難民の事例を考える際には、紛争解決や平和構築などの領域も関わってきます。本ゼミではこれら知の蓄積の一端を垣間見て、よりよい社会や政治の創造に向けてどんなイメージが描けるか、実践的に考えていくことを目標とします。移動に広範な自由が許された日本人は、稀有な立場の存在です。移民/難民という対象をきっかけに、自分とは立場の異なる他者を理解しようとする思考の柔軟性と共感力を身につけて頂ければと思います。なお担当教員の錦田は中東地域政治が専門で、おもにパレスチナ・イスラエル紛争をめぐる研究をしています。中東もまた、多様な宗教的・エスニック・マイノリティを抱え、紛争によって多くの難民を生み出してきた地域の一つです。ゼミでは中東政治に関する文献を特にとりあげるわけではありませんが、大学院進学を考える人には個別に指導や情報提供など対応させていただきます。

### 2. 研究対象

国境を越えて移動する移民、難民、紛争や災害等により自国内で家を追われた国内避難民や無国籍者、帰還難民など移動や国境変更などに起因した様々な問題に直面する人々を移民/難民

と呼びます。本ゼミでは、それらの人々をとりまく政治・社会・経済・文化・アイデンティティなどの課題について学びます。基本的な分析概念や理論の理解を踏まえ、人の移動がもたらす影響と適応のあり方について考察を深めていきます。

### 3. ゼミ生の構成

**3年生:15人(男:女=12:3) 4年生:16人(男:女=9:7)**

昨年から男女比がほぼ等しくなるよう配慮しています。

### 4. 他学部の受け入れ

学部学科問わず受け入れ可。同一基準で選考し、同様に参加することを求めます。

### 5. 秋学期に帰ってくる学部生の扱い

**個別にご相談に乗ります。直接ご連絡ください。**現在、4年生には二名、3年生には一名留学経験者が在籍しています。

### 6. ゼミ生のコメント

錦田ゼミは昨年度スタートしました。本ゼミでは移民/難民について多角的に掘り下げていきますが、その過程で背景にある様々な課題が浮き彫りになります。日本で生活する上で移民/難民について考える機会が多いとはいえませんが、背景にある問題は我々と共通するものです。

こうして移民/難民を通して発見される課題は「貴重な学び」を与えてくれます。さらに、大きな魅力としてゼミに所属するメンバーたちが挙げられます。優しくフレンドリーな先生を筆頭に、少数精鋭で個性的なゼミ生たちと過ごす時間は大きな財産となること間違いありません。また、ローテーションで文献購読を行うため負担も少なく、忙しい人でも両立が可能であり、体育会生も多のが特徴です。勉強面に限らず、ゼミ合宿に課外活動、飲み会と充実した錦田ゼミで共に「貴重な学び」を培いませんか。

### 7. ゼミの進め方

毎週木曜日4限(サブゼミはありません)ゼミ生全員が課題文献の該当箇所を読み、担当者(学期ごとに一人一回)がレジュメにまとめ、発表、グループに分かれたディスカッションを行います。また、課題文献はゼミ生の関心に沿う様、教授により提示された複数の候補から選択します。講読を通して分析概念やキーワード、研究枠組みなどについて学びます。それらを踏まえてゼミ論(卒論)の執筆を進めます。各自で設定したテーマについて、個人研究の進捗状況を報告し、質疑応答を行い、4年生での提出を目指して頂きます。移民/難民に関連した研究者を海

外から招聘する際は、ゲスト講師としてお越し頂き、お話しする機会も設けています。本年度はオンラインでのゼミでしたが、ZOOM利用でのゲスト講師登壇が叶いました。

#### 8. 主な参考文献

田所昌幸(2018)『越境の国際政治』有斐閣

錦田愛子(2020)『政治主体としての移民/難民:人の移動が織りなす社会とシティズンシップ』

#### 9. ホームページアドレス

<https://nishikidaseminar.themedia.jp>

#### 10. 連絡先

ゼミ代表; 谷 眞琴音 入ゼミ担当; 中村 優太

Twitter; @nishikida2020

メールアドレス; [nishikidaseminar2020@gmail.com](mailto:nishikidaseminar2020@gmail.com)